

## 「食べきらん・食べられん・食べれん」はどう違う？

「～できる」にもいろいろ

大分県のとある家庭。小学校一年生のトモキ君が夕飯のカレーライスを前に、お母さんに何か言っています。

「ぼく、にんじんは食べきらん。こんな高い椅子じゃ食べられんけん、もっと低くして！」  
そこへ、お姉さんのアヤカちゃんが帰ってきました。

「うち、さつき友達とスパゲティー食べたけん、もー食べれんにい。」

「食べ」の後に「きらん、られん、れん」が続いていますね。これらを共通語にすると、すべて「食べることができない」という意味になります。このような可能表現を、共通語ではどのように言っているでしょうか。

- |       |               |            |          |
|-------|---------------|------------|----------|
| (i)   | 買える／買えない      | 飲める／飲めない   | …可能動詞形   |
| (ii)  | 見られる／見られない    | 寝られる／寝られない | …ラレル形    |
| (iii) | 使うことができる／使えない |            | …コトガデキル形 |

(i)と(ii)は動詞の変化のしかたによって、どちらかの形になります。「買う」「飲む」のような五段活用動詞なら(i)、「見る」「寝る」のような一段活用動詞なら(ii)です。(iii)はどの動詞の場合でも同じように言うことができますが、やや文章語の雰囲気があります。(i)と(iii)は言い方が違っていきますが、それが表す実質的な意味の違いはほとんどないといっているでしょう。

ところが、大分の方言では可能表現はどの言い方でも意味が同じだというわけではありません。可能、不可能の理由(根拠)によって可能表現に複数の言い方があり、それぞれに何らかの意味の違いがあります。それが、冒頭の会話にあらわれている、三つの言い方なのです。

大分方言だけではなく、全国の可能表現にはさまざまな言い方があります。そして、多くの地域では「能力可能」と「状況可能」という二つを区別して表現します。

例えば、宮崎方言では、次のように使い分けています。

a 私や英語を知らんかり、英語ん本なよー読まん。(「よー読まん」は「え読まん」とも言う)

(自分に能力がないために、英語の本を読むことが不可能だ)

b こかくれーかり、ここじゃ本な読まれん。

(ここは暗いので(本当は読む能力を持っているが)ここでは本を読むことが不可能だ)

aを「能力可能」、bを「状況可能」と呼びます。「可能」という意味・内容を、さらに細かく二つに分けて表現しているというわけです。そのために、共通語と比べると、短い言い方でより

詳しい内容の違いを端的・的確に相手に伝えることができるのです。

大方言の可能表現は、そのうち、bの「状況可能」をさらに二つに分け、動作をする人以外にもわかる「外部の状況可能」と、動作をする人以外にはちよつとわからない「動作する人の内面の状況可能」とに区別します。

冒頭の例にもどりましょう。

(1)ぼく、にんじんは食べきらん

は、「ぼくはにんじんが嫌いで、それを食べる能力がない」と言っているわけで、「能力可能」の例にあたります。

(2)こんな高い椅子じゃ食べられん

は、「椅子が高すぎて座れないから、食べることができない」と言っているわけで、「外部の状況可能」を意味しています。そして、お姉さんのアヤカちゃんの

(3)さつき友達とスパゲティー食べたけん、もー食べれん

は、「お腹がいっぱいだから、もう食べたくない、食べたいとも思わない」という意味あいで、「動作する人の内面の状況可能」の例です。話し手が自分の気持ちを元に判断して、不可能だと考えるという意味です。

つまり、大分県の方言では、次の三通りの可能表現があるというわけです。

(1) 能力可能 ………………動詞(食べ) + きる / きらん

(2) 外部の状況可能 ………………動詞(食べ) + られる / られん

(3) 動作する人の内面の状況可能 ……動詞(食べ) + れる / れん

ところで、九州方言のなかでも鹿児島方言では、共通語と同じように意味の低位区分(区別)がなく、例えば「読んがなっ / 読んがならん(読むことができる / 読むことができない)」という言い方で、すべての場合の「読むことが可能 / 不可能」であることを表します。

大分方言のように意味の低位区分があれば、短い言い方で深く細かい意味・内容が表せます。もう一方の鹿児島方言のように「可能 / 不可能」を全部まるごと、同じ表現法で言い表すことができれば、いちいち表現を選ぶ手間が省けます。どちらにもそれぞれ利点があつて、各地域で、それぞれの方向に変化していったと考えられます。

(松田美香)



これが九州方言の底力!

大分方言では、「〜することができる」という可能の意味を、「能力可能」「外部の状況可能」「動作する人の内面の状況可能」の三つに区別して表現することができます。共通語では表せない細かい意味の違いをコンパクト(手短か)に表現できるのが、方言の魅力の一つです。